

2025

4.9 (水)

12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_iipC7g2iQluS8T4z7A5Nfg](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_iipC7g2iQluS8T4z7A5Nfg)

【技術支援】九州大学 Q-AOS

# デジタルヘルスで支える母子の医療アクセス - グローバルヘルスの実装 -



Key Words

グローバルヘルス

デジタルヘルス

母子保健

健康格差

菊地 君与 教授

アジア・オセアニア研究教育機構 研究推進部門

パリ第 8 大学で哲学修士号取得後、東京大学大学院医学系研究科でグローバルヘルスを専攻し、修士・博士号を取得。日本の ODA の枠組みで、技術協力専門家や開発コンサルタントとして国際保健協力に従事。東京大学特任助教として、日本政府が MDGs 達成に向け提唱した「EMBRACE モデル」のガーナ実証研究に主研究員として従事し、クラスターランダム化比較試験で母子継続ケアの効果を実証。九州大学講師を経て、フルブライト研究員としてハーバード大学で Visiting Scientist、九州大学病院特任准教授を歴任。バングラデシュの母子デジタル遠隔健診研究を通じ内閣府特命担当大臣より「女性のチャレンジ賞特別部門賞」表彰。

グローバルヘルスは、人々が格差なく健康な生活を送られることを目指し、国境を越えて健康課題を解決する学際的な取り組みです。本セミナーでは、とくに母子の健康に焦点を当て、「お母さんと赤ちゃんが、切れ目なく医療を受けるには？」という問いに答えるため、医療アクセスが限られた国や地域での母子継続ケアの仕組みづくりに関する研究を紹介します。中でも近年注目されるデジタルヘルスの活用として、海外での母子遠隔健診の実施研究を取り上げ、妊産婦・乳幼児の健康管理、診断支援システムの可能性について議論します。

2025

4.16 (水)

12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_c4BM3CqITuepsoiXFy5MPg](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_c4BM3CqITuepsoiXFy5MPg)

【技術支援】九州大学 Q-AOS

# アントレプレナーシップ教育 - 社会の価値創造に挑む人材の育成 -



Key Words

アントレプレナーシップ (起業家精神) 教育

価値創造

イノベーション

社会的インパクト

**金子 晃介** 准教授

学術研究・産学官連携本部 知財・ベンチャー創出グループ

福岡県出身。2014年に九州大学大学院システム情報科学府より博士(情報科学)を拝受。同年、九州大学附属図書館付設教材開発センターの助教に就任。電子教材開発の研究に従事。2016年に九州大学サイバーセキュリティセンターの准教授に就任。セキュリティ人材の育成・研究に従事。2021年に現職の九州大学学術研究・産学官連携本部の准教授に就任。九州大学ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター(QREC)でアントレプレナーシップ教育・研究に従事している。九州・沖縄の18大学+2企業で構成される大学発スタートアップ・エコシステム形成のためのコンソーシアム(PARKS)のアントレプレナーシップ教育ワーキンググループ長を務める。

皆さんは、アントレプレナーシップ(起業家精神)教育という言葉から何を連想しますか?「起業」や「ビジネス」のための教育を連想する方もいらっしゃるかもしれません。もし、そうだとすると、アントレプレナーシップ教育について大きな誤解があります。アントレプレナーシップ教育は、私たちの社会に新たな価値を生み出す人材を育成するための教育であり、持続可能な開発目標(SDGs)のすべての分野に関連する教育とも言えます。このセッションでは、アントレプレナーシップ教育とは何か?なぜ、アントレプレナーシップ教育に取り組むのか?など、アントレプレナーシップ教育の内容について紹介したいと思います。

2025

4.23 (水)

12:10

12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_pMv3ozaWTnygas6kF3GWkA](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_pMv3ozaWTnygas6kF3GWkA)

【技術支援】九州大学 Q-AOS

# 人とロボットが 共生する社会のための倫理的設計



Key Words

倫理的設計

AI ガバナンス

標準化

ソーシャルロボティクス

ELSI/RRR (倫理的・法的・社会的課題 / 責任ある研究・イノベーション)

**翁 岳暄** 准教授

高等研究院

翁岳暄は、九州大学高等研究院稲盛フロンティアプログラムおよび東北大学学際科学フロンティア研究所のクロスアポイントメント准教授である。2017年から2023年まで、東北大学学際科学フロンティア研究所および工学研究科ロボティクス専攻の助教を務めた。学際的研究、特にAIと法の接点に関する問題に関心を持つ。北京大学で法学博士号を取得。2012年北京大学での博士課程在学中、中国初の人工知能における倫理的・法的・社会的課題と市民へ公共法情報の自由・無料アクセスに関する二つのイニシアチブであるROBOLAW.ASIA(Ver. 1.0)とCHINA-LII(中国法信息中心)を設立。『The Cambridge Handbook of the Law, Policy and Regulation for Human-Robot Interaction』(ケンブリッジ大学出版 ヒューマン・ロボット・インタラクションの法律・政策・規制ハンドブック)の共同編集者および著者である。

この講演では、技術の急速な進歩に法的措置が追いつけないことから生じるAIペーシング問題に対処するための有望なアプローチとして、倫理的設計の概念について検討します。ソーシャルロボティクスにおける倫理的設計を考慮することに加えて、日常的な人間とロボットの相互作用に内在する倫理的、法的、社会的影響(ELSI)のリスクを利害関係者が効果的に管理できるよう、拘束力のない柔軟なAI倫理基準に基づく規制の枠組みについても議論します。ソーシャルロボットの開発プロセスにAI倫理基準を組み込むことで、ロボット開発者は、ロボット規制のために制定された法律と矛盾することなく、責任ある革新と研究の原則を組み込むことができます。

2025

4.30 (水)

12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_s1VH-dgeSiWuLUVcZ2rWJg](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_s1VH-dgeSiWuLUVcZ2rWJg)

【技術支援】九州大学 Q-AOS

# 未来はあなたの選択から： 意識と行動で築く持続可能な社会



## Key Words

持続可能

意識

行動

エネルギー問題

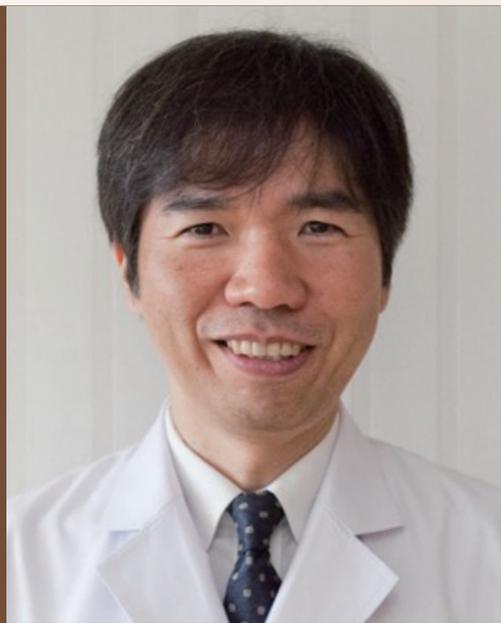
環境問題

心療内科

ディープエコロジー

吉原 一文 教授

キャンパスライフ・健康支援センター



## 【出身地】

福岡県大牟田市（みやま市生まれ）

## 【最終学歴】

2006年3月九州大学大学院医学研究院博士課程修了 医学博士

## 【主な職歴】

2007年4月～2010年3月九州大学病院心療内科・助教

2010年4月～2013年3月自然科学研究機構生理学研究所

2013年4月九州大学病院・助教

2016年4月九州大学病院・講師

2017年4月九州大学大学院医学研究院・講師

2023年4月 現職

## 【主な研究テーマ】

精神神経免疫学、脳科学、疲労、気功を含む治療法の開発

## 【主な書籍】

・自律神経 初めて学ぶ方のためのマニュアル（分担執筆：こころ・情動の病気：身体症状症）中外医学社 2022年

・心療内科学—診断から治療まで（分担執筆：ヨガ、気功）一朝倉書店 2022年

・今日の精神疾患治療指針 第2版（分担執筆：慢性疲労症候）医学書院 2016年

エネルギー問題や環境問題は、私たちの日々の行動、そしてその根底にある意識によって生み出される。大量生産・大量消費が続く限り、自然に回復することは困難であり、根本的な解決には私たちの意識や行動を変える必要がある。

本セミナーでは、持続可能な未来へのヒントとして、ディープエコロジー（環境問題をより精神的、内面的に考え、自然への見方や振る舞いを探求すること）と心療内科学の視点に着目する。心療内科学は、意識や行動を変えること、人と環境の相互関連、根本的な解決、自然に回復する力を引き出すこと等に着眼する学問である。これらの視点を応用することで、エネルギー・環境問題への新たなアプローチが期待できる。